

# ふくい社会福祉

2022  
11  
No.457

Fukui Social Welfare



## こころでつながろう! 福井

障がいの有無にかかわらず楽しめるパラスポーツ。県内でもさまざまな競技団体が、技術向上を目指し練習に励んでいます。(特集ページに関連記事)



## CONTENTS

### 2,3P **特集** パラスポーツを楽しもう

#### 4P 社協TOPICS

- ◆ 「第69回福井県社会福祉大会」
- ◆ 初めてのボランティアに参加して「初ボラ割」GET!

#### 5,6P 報告

- ◆ 「福井県社会福祉協議会会長表彰」被表彰者
- ◆ 「福井県共同募金会会長表彰」被表彰者

#### 7P 連載「みんなdeつながろう!」vol.3

- ◆ NPO法人おっとふあーざー

#### 8P 連載「社会福祉法人が取り組むSDGs」vol.3

- ◆ 社会福祉法人 美浜町社会福祉協議会

案内

- ◆ 「研修受講サポートシステム」事業所情報の更新について

#### 9P 社協TOPICS

- ◆ 「タイ人技能実習生(第2期生)の受入れ」  
～外国人介護人材育成支援事業～

#### 10P 社協TOPICS

- ◆ 学生の視点で福祉の魅力を発信「福幸チャレンジ2022」
- ◆ 寄付・寄贈
- ◆ サキドリ情報「第11回ふくいチャリティー・アート展」



# パラスポーツを 楽しもう



スポーツの秋……。障がいがある人たちもそれぞれの特性と興味に合わせて、さまざまなスポーツに親しんでいます。昨年の東京パラリンピックでは、コロナ禍という逆境にあってもそれぞれの舞台で輝きを放つアスリートたちの姿が感動を呼びました。

県内でもさまざまなパラスポーツを楽しめる機会が増えており、障がいの有無にかかわらず一緒に楽しんでいる団体やグループもあります。今回は競技としてはもちろん、生涯スポーツとしても注目されているパラスポーツの魅力に迫ります。

## 普及・振興を目指して

(しあわせ福井スポーツ協会)

障がいがある人もスポーツに親しめるように、さまざまな装具や器具が開発されてきたほか、ボッチャや卓球バレーなどの新競技も次々と登場し、障がいの有無にかかわらず一緒に楽しむ



人たちが増えていきます。誰もが気軽に親しめる競技も多くあり、より広くとらえた呼称として「パラスポーツ」が使われるようになりました。

県内ではしあわせ福井スポーツ協会が、パラスポーツの普及・振興を図るとともに、県民の理解促進などに取り組んでいます。

普及啓発では、各地でのイベントや行事などに合わせて、さまざまな競技を体験できる教室を開いているほか、小中学校での出前講座も実施しています。昨年度は約50校で実施し、延べ

2900人の児童・生徒が参加しました。子どもたちは、競技の体験を通して障がいに対する理解を深め、「最初は難しかったけど、操作に慣れてきたら面白かった」「もっと知りたい」といった声が寄せられています。

指導員の養成にも積極的に取り組み、障がいの特性やパラスポーツの基本的な知識、指導法などを学ぶ講習会を開催しています。資格取得者は徐々に増え、現在は初級から上級まで合わせて200人以上が登録しています。

協会事務局の担当者によると、平成30年に福井で開かれた第18回全国障がい者スポーツ大会や昨年の東京パラリンピックに後押しされる形で、県内でもパラスポーツへの関心が高まってきているとのこと。

その一方で、障がいのある人やその保護者からの相談で必ずといっていいほど聞く言葉があるとあります。「やりたい・やらせたいけれど」無理ですよね」と。自らハードルを上げてしまっているケースが多いとし、「とにかくやってみることが大事。特性に応じた競技や団体を一緒に探しますので、戻込みせずにご相談ください。」と呼び掛けています。

## しあわせ福井スポーツ協会

〒918-8027 福井市福町3-20  
TEL 0776(43)97112  
FAX 0776(43)97113  
Mail h-sports291@axel.ocn.ne.jp

## 車いすバスケットボール

(福井ラプターズ)

リバウンドのボールを相手に拾われると、全速力で相手ゴール下へ。スピードに乗ったまま両手を大きく広げてディフェンスの体制で腰をひねり、相手選手の真横にピタリと停止。車いすがまさに体の一部となっていることを象徴するようなシーンです。

福井ラプターズの練習は、全力で車いすをこぎ、笛の合図に合わせて急ターンを繰り返すサーキットトレーニングから始まります。持久力や瞬発力のアップだけでなく、車いすを自在に扱える技術の向上にもつながります。接触を伴う激しいプレーが車いすバスケットボールのだいご味ですが、ボールのハンドリングも含め、地道な基礎練習の積み重ねがあつてこそです。

代表の細井哲夫さんは、競技の魅力について、「普段の車いすと違って自在に動け、早く走らせると爽快」と話します。車いすバスケットを題



材とした人気漫画や東京パラリンピックなどで、競技の認知度が高まり、県内小中学校から体験教室開催の依頼も寄せられています。

一方で現役選手として登録しているメンバーは7人にとどまり、関心の高さが必ずしも県内の競技人口の拡大にはつながっていないのが実情と言えます。

チームは半世紀の伝統を誇り、竹廻間光男さんから70代のメンバー3人は「労災のリハビリ施設で始めたのがきっかけ。当時北陸では唯一のチームで、東海北陸地区の大会で優勝したこともあった」と当時を懐かしみます。昔話に花を咲かせつつ、チームの再興を託した細井さんへの期待も口にします。車いすバスケットは性別を問わず、障が



いのない人も公式戦と一緒にプレーできるのも特長です。細井さんは「チームを強くしたいし、それ以前にもっと楽しくしたい」と思いを巡らせ、いつでも紅白戦ができるようにするためにメンバーを増やしたいと話しています。チームのスローガンは『never too late challenge (挑戦するのに遅すぎることはない)』です。以前は嶺南から練習に参加していた小学生もいただけに、「嶺南での選手発掘にも取り組みたい」と意欲的です。

### 福井ラプターズ

Mail fukuiwbcc@yahoo.co.jp

### 春江町総合型地域スポーツクラブ (UNITIVE291)

「ゆるっと始まるんですが、やりだすと熱中して目の色が変わるんですよ」。代表の小林靖幸さんは、現在の活動のメインとなっている卓球バレーを楽しむ会員の様子を、目を細めて話します。会の前身は車いすサッカーチームでした。小林さんが中級障がい者スポーツ指導員の資格を取得したのを機に、仲間とともに車いすサッカーチームを創設。障がいがある人もスポーツができ、交流できる場にと活動の幅を広げ、総合型地域スポーツクラブへと発展しました。「UNITIVE291」の名称は当時から変わっていません。

参加資格は障がいの有無、年齢、性別、国籍など一切問わず、中学生から80代まで約50人が在籍しています。これまでにスポーツチャンバラやフライングディスク、ポッチャをはじめ、さまざまな競技を取り入れ、現在は専ら卓球バレーです。

卓球台を使い、ネットを挟んで1チーム6人ずつがいすに座って対戦します。音の鳴るボールを、かまぼこ板のような木製の板で、ネットの下を通るようにころがして打ち合い、得点を競います。思わず立ち上がってプレーすると反則となるルールもあり、試合が進むほどに熱気が増して盛り上がります。

コロナ禍では一時休止を余儀なくされましたが、会員たちから「早く再開してほしい」との声が相次いだほどの人気ぶりです。会員たちの熱心さはレベルアップにつながり、各種大会で優勝争いの常連となっています。

近年は障がいの有無に関係なく楽しめる競技が増え、その認知度も高まっています。小林さんはハード面やソフト面、社会の理解



も含めてやりやすい環境になってきていると感じており、「障がい者スポーツ」からの脱却を願っています。会の草創期の車いすサッカーのほか、「ゆるく楽しんでできる新たな競技にも力を入れていきたい」と話し、「ぜひやりたい競技を提案してほしい」と入会を呼び掛けています。

### UNITIVE291

Mail team.unitive291@gmail.com

## 第69回 福井県社会福祉大会 開催！

本会では10月22日(土)、福井県生活学習館（ユ一・アイふくい）にて、第69回福井県社会福祉大会を開催しました。今年の大会は3年ぶりに、被表彰者、一般参加者等約220人参加の開催となりました。

まず、社会福祉の様々な分野やボランティア活動で長年活躍され、その発展や向上に寄与された272人と12団体の方々に、その功労を称える表彰が行われました。（被表彰者の一覧は5～6頁に掲載しております。）

その後に行われた記念講演では、タレントでエッセイストの小島慶子氏から、発達障害をテーマにご講演いただきました。講演では、発達障害のあり方は様々で一人ひとり違うことへの理解を呼びかけ、また、まだまだ社会には課題があり、障がいが一ひとりの大切な「個性」といえるような優しい社会になるためには、周りの人の声掛けや環境づくり、公的制度の充実などが大事だということ、これまでにご自身が経験した状況やその時の気持ちを交えてお話いただきました。



大会式典(表彰式)の様子



講師の小島慶子氏

## 「ボランティア体験2022」の一部受入施設・団体で「ふく割」が取得できるようになりました！



県では、令和4年11～12月にかけて、ボランティア活動未経験者に対する参加のきっかけづくりとして、初めてボランティア活動をする方に電子割引クーポン「ふく割」（「初めてのボランティアふく割（初ボラ割）」）を発行する事業を試行的に実施しています。

この度、その発行団体として、本会が県内ボランティアセンターおよび社会福祉施設・団体等と実施している「ボランティア体験2022」事業の一部の活動先が協力しております。「初ボラ割」をきっかけに、ボランティア活動をはじめませんか？

発行対象	令和4年11月10日(木)～12月23日(金)の期間中に、以下の対象となる体験プログラムに参加した方
対象のボランティア体験	<p>「ボランティア体験2022」受入団体のうち「初ボラ割」発行に協力している一部の体験プログラム</p> <p><b>【主な活動プログラム】</b></p> <p>(1) 福祉施設の利用者との交流、レクリエーションのお手伝い  (2) 施設行事や地域で実施されるイベントの運営協力  (3) NPOやボランティアグループが行う活動への参加 等</p> <p>※「ボランティア体験2022」の全ての体験プログラムで「初ボラ割」が発行されるわけではありません。  ※体験にあたっては、「ボランティア体験2022」の参加申込みが必要です。</p>
発行クーポン	<p>ふく割参加店舗全店で税込み1,500円以上のご利用で500円の割引が受けられるクーポン</p> <p>※期間中クーポンの取得は1人1回まで。有効期限は取得後2週間。※発行枚数は500枚。上限に達し次第、クーポンの発行は終了します。</p>

対象の体験プログラムはこちら



### 「初ボラ割」に関するお問合せ

福井県 県民活躍課  
ふくい県民活動・ボランティアセンター

TEL 0776-29-2522 FAX 0776-29-2523  
E-mail f-npo-c@pref.fukui.lg.jp HP <http://info.pref.fukui.jp/danken/npo/>

### 「ボランティア体験2022」に関するお問合せ

福井県社会福祉協議会  
福井県ボランティアセンター

TEL:0776-24-2433 FAX:0776-24-0041  
E-mail [volunt@f-shakyo.or.jp](mailto:volunt@f-shakyo.or.jp) HP <https://www.f-shakyo.or.jp/>





# みんなde つながろう!

このコーナーでは、県内の福祉活動に取り組み、ご紹介する皆様をご紹介します。

Vol. 3

第3回は、10月23日(日)にNPO法人おとふあーざーが開催した「子育て戦隊。パレンジャー!」  
「ザ・マスクド・ハロウィン」です。  
坂井市のゆりの里公園で100組以上の親子がオリジナルマスク作りやワークシヨップを楽しみました。子育て戦隊パレンジャーシヨールでは、マスク対決でシャイニングレッドが勝利!ハロウィン抽選会では、お菓子をプレゼントしました。



## Q 皆さんの活動内容を教えてください。

A お父さんがキラキラと輝き、イキイキと家事と子育てを楽しむことを目指し、2019年11月にNPO法人を設立しました。

現在のメンバーは保育士、栄養士、看護師などとして働く男性12人です。お父さん・夫が家事・子育てに積極的に関わっていきつかな、家族向けの様々なイベントを開催しています。



## Q 活動を続ける中で、お父さん・夫に変化はありましたか?

A 年々、男性の家事・子育てへの関心や参加率は高まっていると感じます。お父さんたちはイベントに参加し、他の家族の姿を見ることで、「自分だけでなく他のお父さんも家庭の中で活躍しているんだ。」「あのお父さんのように子どもに向き合ってみよう。」という風にモチベーションが上がります。

## Q これからの活動目標を教えてください。

A 家族のあり方が多様化する中で、それぞれの家族が家庭生活を楽しんでいくヒントを得られるような企画を考え、多くの家族に参加してもらいたいです。



婚活支援↓結婚生活支援↓子育て支援↓子どもたちへのジェンダー教育というように、行政だけでは行えない切れ目のない支援を行っていきたいです。そして今イベントに参加している子どもが親になって、子どもを連れてイベントに参加してくれたいです。

## Q 今後のイベントの開催予定を教えてください。

A 次回は12月に、『もちつき』をテーマとしたイベントをゆりの里公園で開催します。パレンジャーも登場します。ぜひお子さんと一緒にご来場し、楽しい家族時間をお過ごしください。

## あしがき

お父さんとお子さんが楽しそうに過ごす姿が印象的でした。お母さんの笑顔からは心の余裕が感じられました。

おとふあーざーの皆さんの活動によって、より多くの男性が家事や子育てに楽しみな参加し、みんなが輝ける社会に向かっていくことを願います。



[取材協力] 社会福祉法人 美浜町社会福祉協議会 主事 塩濱功平 氏

社会福祉法人美浜町社会福祉協議会（以下、美浜町社協）では、『ひとりのしあわせのために みんなで育む「ほっとかない」まち』の実現をめざしています。それは、国際的に進められている、SDGsの「誰一人取り残さない」という原則に基づいた17の共通目標のいくつかを、すでに体現しているものでもあります。

### 美浜町社協がほっとかないまちづくりにむけて取り組んでいること

「誰一人取り残さない」ためには、『集落』という身近な生活単位における支えあいのつながりづくりが大切だと考えています。集落ごとの福祉委員会の設置推進とその活動支援をはじめ、つながりの場となる「みんなの食堂」への支援を行い、現在では町内5つの集落で取り組みが進められています。そのほかにも町民の皆さんが、より困りごとを相談しやすい仕組みとして、美浜町社協公式LINEも開設しています。

これまででも町内の多くの方から野菜やお米のご寄付をいただき、それらを経済的に困窮している方にお届けしていたのですが、その中で「せっかく食材をもらっても料理ができない」という声があり、料理教室の開催につながりました。また、「ファミマフードドライブ」に参加し、町内のファミリーマートさんと連携して、ご家庭で食べきれない食品等をお預かりし、必要な方にお届けすることで支えあいの輪が広がっています。

この「ほっとかない」まちづくりの実現は、子どものころから地域、そして他者への理解を育むことから始まります。美浜町社協では町内各小学校（3校）の福祉学習に協力し、年間15限～20限という多くの授業数を通じて、自分が住む地域への愛着、そして地域社会における多様性への理解を育めるよう取り組んでいます。

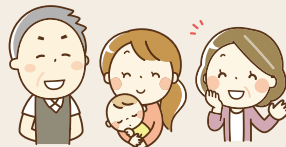


料理教室は参加者と地域の方がつながる場にもなっています



### これからの取り組みについて

地域社会から孤立している人達を見過さず、他人事ではなく自分事としてとらえ、また地域全体の課題として考えられる町づくりを目指していきます。コロナ禍がもたらした生活様式の変化に伴い、少人数で気軽に集える場のさらなる創出と、個別の福祉的なニーズに応えられる社会資源の創出に取り組んでいきます。



### 美浜町社会福祉協議会が取り組むSDGs

ひとりのしあわせのためにみんなで育む「ほっとかない」まちづくりを進めます。

- みんなで集落がもつ「力」を高めます。
- みんなが「つながる」しくみをつくります。
- みんなで「支えあえる」しくみをつくります。
- みんなで「しらせ」をつなげます。
- みんなが「活躍できる」場所をつくります。

## 福井県社会福祉研修所からのお願い



### 「研修受講サポートシステム」上の 事業所情報の更新をお願いします



令和4年度より運用を始めた「研修受講サポートシステム」をご活用いただきありがとうございます。

研修所では、ご登録いただいた事業所情報（住所やメールアドレス）を基に研修のご案内、ご連絡をしております。

お手数ではございますが、研修に関する通知や最新の情報を確実にお届けするためにも、**事業所情報に変更があった場合はシステム上の情報も併せて更新**いただきますようお願いいたします。

※令和3年までに開設されている事業所には、各事業所のID・パスワードを令和4年1月下旬に郵送にてご案内しております。

#### ◆こんな時には事業所情報を更新してください

- メールアドレスが変わった
- 事業所の住所が変わった
- 担当者が変わった
- 電話・FAX番号が変わった 等

#### ◆新規事業所を開設した場合は事業所の登録をしてください

事業所情報の更新等の手順は右記の二次元コードから確認いただけます。



◆「研修受講サポートシステム」に関するお問い合わせは、人材研修課（TEL0776-21-2294）へお願いします。



## タイ人技能実習生(第2期生)の受入れ ～外国人介護人材育成支援事業～

本年4月のタイ人技能実習生(第1期生)に続く、第2期生(8名)が9月16日の入国から約1か月の入国後講習を経て、10月24日から県内の介護事業所5か所で実習をスタートさせました。これから3年間、それぞれの介護現場で福井の介護技術を学びます。

なお、今回の実習生のうち6名は、タイに県内の介護福祉士を派遣して教育を行うなど、本県独自に育成した初めての実習生です。現在もタイの高校と連携した実習候補者の教育を進めており、実習生の確保、安定した受入れ体制の強化を図ってまいります。



タイ人技能実習生受入式(令和4年10月5日)



入国後講習(介護)の様子

### 県内介護事業所の外国人材受入状況について

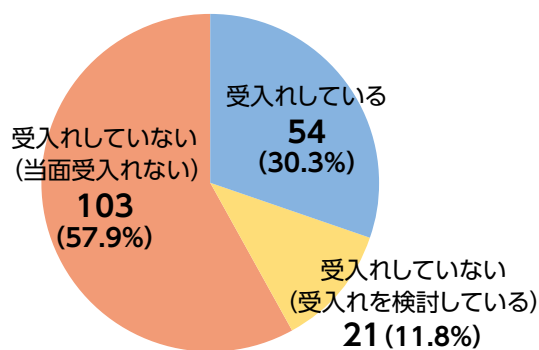
令和4年7～8月実施アンケート調査より

回答のあった事業所では、7月1日現在、外国人介護職員(以下「外国人」という。)を受入れている事業所が約3割(30.3%)という結果でした。なお、介護老人福祉施設(特養)においてはその割合は6割以上(61.5%)となっています。

一方、現在外国人の受入れを行っていない事業所で、「当面は受入れを行わない」とする事業所は6割弱(57.9%・103事業所)でしたが、一方で「介護人材を確保できている」は36.9%にとどまります。人材不足を認めつつ、外国人を受入れることについては、生活指導・監理(46.6%)、経済的負担(27.2%)、職場への影響(26.2%)という点で不安を感じている事業所が多いことがうかがえました。

今回得られた調査結果を基に、外国人受入れに対する不安の解消に努めるなど、本県への外国人介護職員の受入れを進めてまいります。

現在の外国人介護職員を受入れ状況(n=178)



当面受入れしない理由(n=103)

人材が確保できている	38 (36.9%)
人材は不足しているが、外国人受入は生活指導・管理に不安がある	48 (46.6%)
人材は不足しているが、外国人受入は経費的負担に不安がある	28 (27.2%)
人材は不足しているが、外国人受入は職場への影響に不安がある	27 (26.2%)
その他	0

※複数回答であり、割合合計は100%を超える

# 学生の視点で福祉の魅力を発信 「福幸チャレンジ2022」

福祉現場は慢性的な労働力不足に、コロナ感染の拡大が拍車をかけていますが、一方で、社会貢献につながる仕事を希望する若者は多いという調査結果もあります。(※)

本会は今年度、初の試みとして、福井県立大学と連携して福祉業界のイメージアップを目指す新たな取り組みを始めました。参加する学生は、看護福祉学部社会福祉学科の坂口昌宏准教授ゼミ2年生9人です。10月11日には、福井県立大学永平寺キャンパスで、学生たちが、感染への対応に向き合ってきた福祉関係者らの話を聞き、福祉の魅力を発信する企画の立案と取材への意欲を高めました。



コロナ禍でも人とのつながりを止めないために行ってきた「チャレンジ」を報告したのは、大野市の障害者支援施設「希望園」の土肥知博さん、県ろうあ協会の濱田かおりさん、あわら市の民生委員児童委員 岩本悦信さん、南越前町社会福祉協議会の細川泰司さんです。

学生たちは、今後、4つのグループに分かれて福祉現場に出向き、施設や活動の見学、インタビュー取材などで詳しい情報を収集し、発信していきます。

※マイナビ2023年卒大学生就職意識調査

## 寄付 寄贈

心温まる寄付・寄贈に  
心から感謝申し上げます  
皆様の善意は有効に  
活用させていただきます

♥9月14日

**寄付者** KDDI株式会社 北陸総支社 様  
●車いす 4台

**寄贈先** デイサービス  
神久ファミリー(南越前町)



♥9月22日

**寄付者** 一般社団法人 生命保険協会  
福井県協会 様  
●助成金 10万円 他

**寄付先** 社会福祉法人  
あすなる福祉会(大野市)



♥10月27日

**寄付者** 明治安田生命保険相互会社  
福井支社 様  
●寄付金 30万3,000円

**寄付先** 福井県社会福祉協議会



## 第11回ふくいチャリティー・アート展 ～未来を支える子どもたちのために～

入場無料

サキドリ情報

**日時** 12月3日(土)～5日(月) 9:30～17:00  
(最終日は15:30まで)

**会場** 福井市にぎわい交流施設「ハピリンホール」  
(福井市中央1丁目2-1)



本県にゆかりのある名士・作家の方から寄贈された書・絵画・版画・陶芸品などを展示し、入札にて頒布します。作品頒布による収益は、子どもの健全育成・自立支援に向けた事業「子ども未来支援事業」の財源として活用させていただきます。



問合せ先

総務企画課「ふくいチャリティー・アート展」係  
☎0776-24-2339